

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		8/16～8/23	8/23～8/30	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	0.019	0.033
		セシウム137	0.170	0.230
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.068	0.089
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.034	0.085
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	0.021	0.030
		セシウム137	0.150	0.250
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.050	0.069
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.051
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.066
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.070	0.083

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		8/16～8/23	8/23～8/30	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.028	0.062
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.022	0.034

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

**渡邊正己** 京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第68回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成29年8月16日～平成29年8月30日)

平成29年8月16日～8月30日の間、南相馬市の大気浮遊じん中の放射能濃度は、セシウム134(平均0.005mBq/m<sup>3</sup>)およびセシウム137(平均0.084 mBq/m<sup>3</sup>)ともに低い値で推移しており健康影響を心配することは全くありません注1。この監視測定は、平成26年11月以来、休みなく続けていますが、当初、稀に1mBq/m<sup>3</sup>を超える値が観測されましたが、現在は、そうしたことも全く見られなくなっています。

注1 放射性セシウムは、1960年代に実施された大気圏内核実験の際にも世界中に飛散し、半減期が30年のセシウム137は、現在も日本国土の土壌に300Bq/kg程度残存しています。それに対しセシウム134は半減期がおよそ2年と短いため、核実験由来のものはもちろん、今回の事故で放出されたものもほとんど残っておりません。